

ステップ5 リスクの見積り

「ステップ4 危険性又は有害性の特定」で特定された危険性又は有害性について、どの程度のケガや健康障害が発生しやすいのかを、「①リスクが発生する頻度」、「②リスクが発生したときに負傷又は疾病になる可能性」、「③負傷又は疾病の重篤度」の3つの要素によりリスクを見積もります。

① リスクが発生する頻度

頻 度	点数	内 容 の 目 安
頻 繁	4	1日に1回程度
時 々	2	週に1回程度
ほとんどない	1	半年に1回程度

② リスクが発生したときに負傷又は疾病になる可能性

可 能 性	点数	内 容 の 目 安	
		危険検知の可能性	危険回避の可能性
確 実 である	6	事故が発生するまで危険を検知する手段がない	危険に気がついた時点では、回避できない
可能性が高い	4	十分な注意を払っていないければ危険がわからない	専門的な訓練を受けていないければ回避の可能性が低い
可能性がある	2	危険性又は有害性に注目していれば危険が把握できる	回避手段を知っていれば十分に危険が回避できる
ほとんどない	1	容易に危険が検知できる	危険に気がつけば、けがをせずに危険が回避できる

③ 負傷又は疾病の重篤度

重 篤 度	点数	災 害 の 程 度・内 容 の 目 安
致 命 傷	10	死亡や永久的労働不能につながるけが 障害が残るけが
重 傷	6	休業災害（完治可能なけが）
軽 傷	3	不休災害（医師による措置が必要なけが）
軽 微	1	手当後直ちに元の作業に戻れる微小なけが

リスクポイント = ① 頻度 + ② 可能性 + ③ 重篤度

加算して得られた「リスクポイント」を下表を用いて「リスク」を決めます。

リスクの優先度

リスク	点 数 (リスクポイント)	優 先 度	取 扱 基 準
Ⅳ	12～20	直ちに解決すべき問題がある	直ちに中止または改善する
Ⅲ	9～11	重大な問題がある	早急な改善が必要
Ⅱ	6～8	多少問題がある	改善が必要
Ⅰ	5以下	必要に応じて低減措置を実施すべきリスク	残っているリスクに応じて教育や人材配置をする